

令和4年度第1回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和4年7月30日(土)14時～16時15分
場 所	松戸市立博物館 会議室
出席者	<p>(委員)</p> <p>委員 大野 寿          委員 大西 一樹          委員 山口 恵理子          委員 岡田 啓峙          委員 谷鹿 栄一          委員 百田 清美          委員 濱島 正士          委員 佐藤 孝之          委員 小島 孝夫</p> <p>(事務局)</p> <p>教育長 伊藤 純一          生涯学習部長 藤谷 隆          博物館館長 渡辺 尚志          文化財保存活用課職員(博物館) 8名</p>
議 題	<p>1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について</p> <p>2. 館蔵資料展「古文書をみる、絵図をよむ 江戸時代編」内覧</p> <p>3. その他</p>
公開 非公開	公開(傍聴者0人)
配布資料	<p>1. 会議次第</p> <p>2. 資料 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)          別冊①資料編、別冊②こどもミュージアム基本計画(案)、概要版</p> <p>3. 令和4年度のスケジュールについて</p> <p>4. 展示関連 館蔵資料展示チラシ</p> <p>5. その他報告          「まつどデジタルミュージアム」4月29日開設について          野外展示・復元竪穴住居にて宿泊体験を実施について</p>

## 1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について

～資料に基づき、事務局より説明をした。～

**委員**：「こどもミュージアム」は、博物館に来館するというハードルを下げるという点からも、子どもたちにとって良い取り組み。子どもたち自身が目的意識をもって何度も博物館に足を運べるように誘導することが大切。マンネリ化せずリピーターを取り込めるようにしたい。

**委員**：こどもの来館者を増やし、将来を担うこどもに松戸を理解してもらおう意味で、「こどもミュージアム」が考えられた。

**委員**：全体的に文章が読みやすくなった。用語解説も一般の方にわかりやすく親切で良い。

**委員**：ICTをどのように活用され、博物館に来られない生徒やモノに触れられないなど特別な支援が必要な生徒に対して、どのような対応が可能となっていくのか大事である。QRコードを読み取ると動画が流れるなど。

**事務局**：「こどもミュージアム」はハンズオンを基本とした展示である。

令和3年度にデジタルミュージアムを開設したので、現在導入しているワークシートやQRコードと併せて、「こどもミュージアム」に活用していきたい。

来館しなくても、こどもが一定の学びを得られることを考えている。

**委員**：来たら楽しめることはわかる。来る前にいかに博物館への興味をもたせるかが大切であり、「こどもミュージアム」をどれだけ有効に活用できるかを、教員側にも責任を持って考えていく。博物館に来た生徒が何を心得ることができるのかを博物館・学校双方が考える必要がある。

どのような子でも楽しめるものを作り上げることを気にかけてもらいたい。

**委員**：学習指導要領の変更と博物館リニューアル計画のタイミングが重なっているが、両者を意識しているか。

**委員**：学習指導要領の変更は、教科の内容というより、学び方の変化に重点が置かれている。教師主導で教えるのではなく、生徒たちに調べ方を教えて、生徒自身が調べる力を身に付けることが求められている。こども達が、博物館に来れば、自分の疑問が解決できる施設になってほしい。そうすれば自主的にくるようになる。

**委員**: 学習指導要領の変更は「主体的・対話的で深い学び」の視点から、といったところにある。こどもの興味関心をいかに深めさせるかが求められている。学校側が、単元の中に博物館の見学を組み込む。来館前後の学習計画を博物館の学芸員と共有することで、より効果的な学びが得られる。

**委員**: パブリックコメントで質問が出る可能性があるため、概要版に指導要領の変更を意識して博物館が組み込んでいることを明記する用意が必要。

**事務局**: 概要版に反映できるものは、示せるよう努める。

**委員**: 「こどもミュージアム」の“一人一人に合った”というコンセプトは、新指導要領に適うため、押し出すことができるのでは。

**委員**: 「こどもミュージアム」の「たんけんしてみよう」の「フィールド探検隊」が興味深い。市内の素晴らしい文化財の場所へ飛び出していくのは良い取り組み。ただし、内容が充実し、なおかつ安全なフィールドワークを実施するためには、指導者が大切。学芸員の引率が絶対だが、現状は人手不足で難しい。学芸員の増員や友の会との連携など、人員の確保が重要で不可欠。

**委員**: 友の会については、単なる地域との連携というだけではなく、博物館を盛り上げてくれる人、手伝ってくれる人、地域のなかで様々なことを企画・運営できる“コーディネーター”の育成が重要。

**委員**: 「こどもミュージアム」は、小学生以前の児童にどう対応するのか。

**委員**: 3～5歳でも、小学生の調べたものや発表を見たり聴くことができる。公園のイベントなどと連動し、児童とその親の目に博物館のそうした掲示が、存在が、留まる機会が増えるよう、情報発信に注力する必要がある。

**委員**: 前の協議会でも述べたが、計画の冊子の写真や色使いはこどもたちの目を引き興味を持たす入口として良い。体験を通じて、子どもたちの想像力が膨らむことに期待したい。冊子のカラーリングやマークの一貫性を工夫することで、情報が拾いやすく、より伝わりやすくなる。

**委員**: 大学生や研究者とのかかわりという点で、博物館にどのように取り込むか。

**委員**: 所蔵資料の公開・利用を一層進めると同時に、「特別展・企画展」の内容を充実させることが求められる。

**委員**: 文化財保存活用地域計画でも使用される「松戸ブランド」の発信というコンセプトについて、「松戸ブランド」とは何を説明しようとしているのか。「松戸市」という通史を貫く視点がない。超時代・超分野的な視点が必要。現代の日常生活

につながる過去の営みを探し出す作業が本来の「松戸ブランド」必要ではないか。

## 2. 館蔵資料展「古文書をみる、絵図をよむ 江戸時代編」内覧

**委員**：古文書の大意も読みやすく、一般の人にもわかりやすい。

**委員**：家に伝わる古文書を通じて、歴史は日常生活のなかにあるということを実感した。

**委員**：タイトルにこだわりを感じた。どうしても古文書の展示は地味。また近世の村の仕組みに関する基礎的な説明が欲しかった。

**委員**：近世の暮らしがよくわかった。昔の人びとの大らかさを感じた。本展示の成果は、文化財保存活用地域計画にも活かすことができるのではないか。

**委員**：組織体と生活がよく現れた展示だった。村の展示によって、「松戸」を強く感じた。

**委員**：古文書は、生活の1場面を切り取ったものだが、その時代の生活の全体像や様々なストーリーがみえてきた。このような体験を子どもたちにもしてほしい。こんなに薄い和紙をよくここまで保存してきたと感心した。

**委員**：古文書から何を伝えることができるかが大切。古文書を用いて、こどもに自分で考える面白さを提供できるかが大切。

**委員**：古文書については、自分にもこどもたちにも距離感があったが、内容がわかると、見た目と違って、当時の人の現代の人と変わらない生活が垣間見えて親近感がわいた。離婚届(三行半)や、小学校6年生なら、教科書で5人組についても知っているので、資料としても使える。学習への応用も考えていきたい。

**委員**：古文書は、行政文書のように堅苦しい物かと思ったが、コレラの治療法や野馬の払い下げのことなど、生活にかかわりのある物もあり親近感がわいた。

## 3. その他

「まつどデジタルミュージアム」4月29日開設について

～HPの画像に基づき、事務局より説明をした。～

野外展示・復元竪穴住居にて宿泊体験を実施について

～事務局より説明をした。～